

橋梁長寿命化修繕計画



美盛橋 橋長 122.8m 竣工年 2003 年

平成 25 年 1 月 策定
(平成 28 年 5 月 改訂)
(平成 30 年 7 月 改訂)
(令和 3 年 7 月 改訂)
(令和 5 年 12 月 改訂)

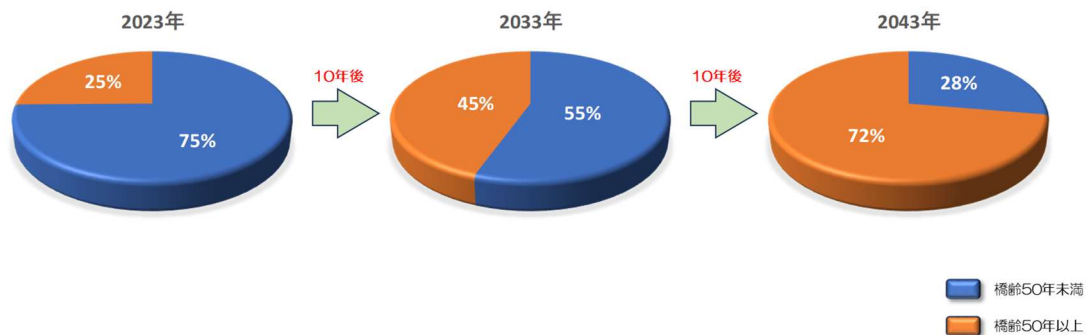
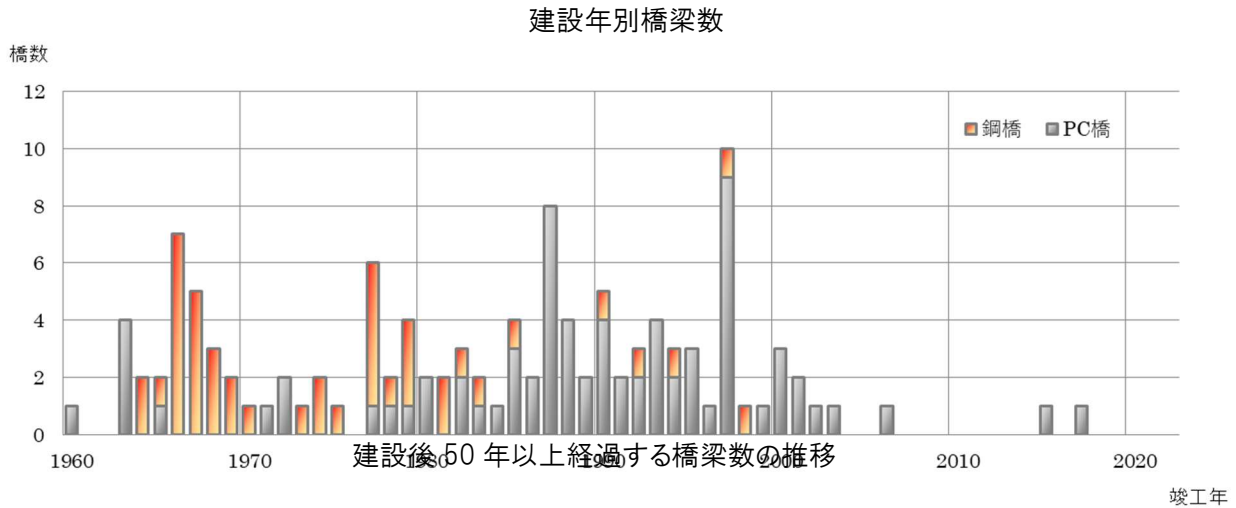
1. 長寿命化修繕計画の背景・目的

(1) 背景

足寄町が管理する橋梁は、令和 5 年時点で 119 橋あります。平成 25 年の当初計画策定時は 125 橋でしたが、町道切り替えや撤去に伴う廃橋が 2 橋、道道昇格に伴う移管が 3 橋、町道廃止に伴う林道への移管が 1 橋あり、計 6 橋が減ったため点検費 2 百万円の縮減となりました。

現在の管理橋梁 119 橋の中で、建設 50 年を経過する高齢化橋梁は現在 30 橋(25%)ですが、10 年後の 2033 年は 53 橋(45%)、さらに 10 年後の 2043 年で 86 橋(72%)となり、今後、急速に高齢化が進行していきます。

このような背景から、増大が見込まれる橋梁の修繕や架替えに要する費用に対して、可能な限りのコスト縮減の取り組みが不可欠になっています。



(2) 目的

足寄町では道路交通の安全性を確保する上で、橋梁の維持管理について、これまでの『事後保全的対応』から、計画的な『予防保全的対応』に転換を図り、橋梁の長寿命化によるコスト縮減を図ります。

2. 長寿命化修繕計画の概要

(1) 対象橋梁

長寿命化修繕計画の対象橋梁は、足寄町が管理している全 119 橋を対象とします。

(2) 長寿命化修繕計画の流れ



- ① 橋の点検結果から橋の損傷を把握
- ② 定期点検による橋の損傷データの更新
- ③ 橋の修繕計画の立案
- ④ 修繕計画に併せた修繕対策の実施
 - * 橋の点検結果から、劣化の激しい橋を優先的に補修します。
 - * 橋の損傷が大きくなる前に修繕を行い、長寿命化を図り、維持管理に努めます。

3. 健全性の把握および維持管理に関する基本的な方針

(1) 健全度の把握の基本的な方針

橋梁の重要性に応じ、定期的な点検（1 回/5 年）を実施し、維持管理の基礎となる橋梁の損傷状況データの蓄積を行います。また、今後も橋梁の重要度に応じた定期パトロールや地震時および洪水発生直後などに臨時点検を行い、損傷状態の把握に努めます。

橋梁点検は平成 28 年度から始まり、1 巡目は 125 橋の点検を実施しました。令和 3 年度からの 2 巡目では、120 橋の点検が完了しています。令和 4 年に 1 橋が林道橋となったため、3 巡目点検は 119 橋を対象に実施します。

点検方法は「北海道市町村橋梁点検マニュアル（案）（平成 31 年 3 月）北海道道路メンテナンス会議」に基づき、近接目視点検を行いました。点検結果を基に橋梁毎の健全性診断を行った結果は以下の通りです。健全性判定区分は健全な状態から順にⅠ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳの 4 段階となっています。点検結果は、HOCTEC 北海道市町村橋梁管理システムや全国道路施設点検データベースに保管され、順次追加更新されていきます。

健全性診断結果（令和 4 年度時点）

健全性判定区分		橋 数	状 態
Ⅰ	健全	54橋	道路橋の機能に支障が生じていない状態。
Ⅱ	予防保全段階	43橋	道路橋の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態。
Ⅲ	早期措置段階	22橋	道路橋の機能に支障が生じる可能性があり、早期に措置を講ずべき状態。
Ⅳ	緊急措置段階	0橋	道路橋の機能に支障が生じている、又は生じる可能性が著しく高く、緊急に措置を講ずべき状態。

(2) 日常的な維持管理に関する基本的な方針

橋梁を良好な状態に保つため、日常的な維持管理としてパトロールや清掃などに努めます。



橋面土砂堆積



土砂堆積（排水枡）



清掃後（排水枡）

4. 新技術の活用方針及び費用縮減に関する具体的な方針

(1) 新技術の活用方針

点検及び修繕工事を行う橋梁で新技術活用の検討を行います。令和10年度までに1割の橋梁で新技術を活用し、約1割程度の維持管理コストの縮減を目指します。

(2) 集約・撤去・更新の検討方針

迂回路が存在し集約が可能な橋梁について、令和15年度までに2橋程度の集約化・撤去・更新を検討し、将来的な維持管理コストを10百万円程度縮減することを目指します。なお、令和6年度以降に1橋の更新を計画しており、5百万円程の維持管理コスト縮減を見込んでおります。

5. 長寿命化修繕計画

(1) 修繕計画の基本的な方針

予防的な修繕を実施することにより、修繕・更新に係る費用の低コスト化を図り、ライフサイクルコスト（以下、LCC）の低減を図ります。

(2) 修繕計画の優先順位

路線の優先度に加え、橋梁毎の健全性診断の結果から、補修の優先順位を下記の表のとおり設定しました。計画的に修繕することで、年度毎の予算の平準化を行います。

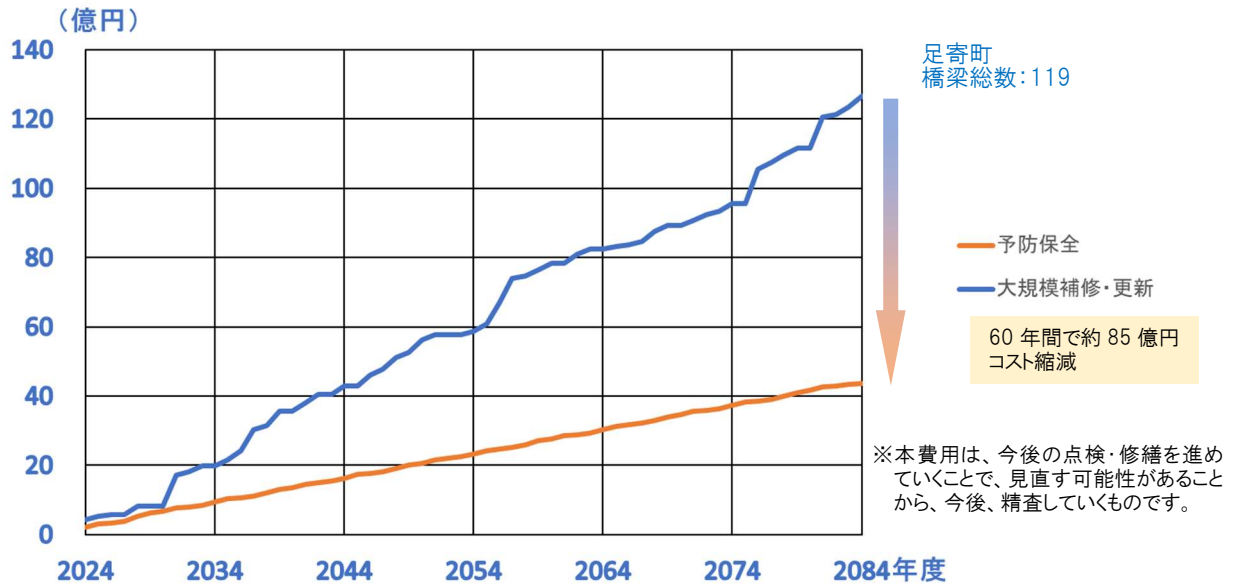
補修優先順位

健全性の判定区分		優先度					
		緊急輸送路	第三者被害	バス路線 (スクール含む)	集乳車	橋長	左記以外
I	良	—	—	—	—	—	—
II	↑ ↓	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰	⑱
III		⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫
IV	悪	①	②	③	④	⑤	⑥

(3) 修繕・掛替えに係る費用縮減効果

今後 60 年間に必要とされる保全・更新費用を最も安価になるよう LCC を試算予測しました。

LCC 試算結果より、事後保全においては約 130 億円の費用が必要となるのに対して、予防保全においては約 45 億円となり、予防保全を導入することにより約 85 億円(65%)のコスト縮減効果が見込まれます。



保全・更新費用の推移

6. 対象橋梁毎の次回点検時期及び修繕・架替えに係る費用の縮減

様式 1-2 による。

7. 計画策定担当部署

* 計画策定担当部署

足寄町役場 建設課建設室 土木担当 電話番号:0156-28-3864